

仲間と共に、愛する郷土の歴史や文化を次世代へ――

金谷竹下で理容店を営む齋藤辰美さん。生まれ育った地域を愛する齋藤さんは「五和村村報」の創刊号（明治22年）から全63部をDVDに収録しました。所属する金谷コミュニティ委員会でも広報副部長を担い、地域づくりをけん引しています。

【きっかけは竹下の由来】

齋藤さんの祖父は、竹下通りの開通に合わせて、在所に近い竹下に移り住み、理容店を開業しました。「私で3代目ですが、人や土地柄がよく、とても好きな場所。離れようなんて思ったこともなかったです」と話す齋藤さんは、10代続く齋藤家の過去に興味を持ち、家系図とともに地域の歴史を調べ始めたそうです。「調べてみたら、この地に最初に移り住んできたのが、齋藤

家だとわかったんです。町名も『竹の下に住む齋藤さん』という呼ばれ方が由来だったそうです」快活な口調から、地域の歴史を振り返ることの楽しさが伝わってきます。こ

との暮らしぶりの違いなどを
知るために調べた資料が「五和村村報」だったのです。村報には、役場の予算や婦人活動などが詳しく掲載されており、後世のためにもDVDへ



五和村村報をDVD化
齋藤辰美さん（金谷竹下）

ことを見落としてしまうかも知れません。小さな村では、みんなの記憶から忘れ去られてしまうでしょう」その言葉には、取り組みに対する真剣さが強く込められています。

【広がる仲間の輪】

昭和48年開催の「五和小学校創立100年祭」で展示した学校に関わる古い資料が、2カ月後の学校火災で焼失。そのときは、展示中にカメラで接写した人がいたため、何とかフィルムで残すことができたそうです。「この話から、歴史的資料は、みんなで共有すべきだと感じました。そして、資料が世に出る機会は、人とのつながりによって生まれると思っています」と話す齋藤さんは、仲間の輪を広げ続けています。

「これからも仲間と楽しみながら、郷土の歴史や文化を次世代に伝えていきたいです」と熱く語ってくれました。齋藤さんが製作したDVDは市内の各図書館でご覧いただけます。興味のある人は、ぜひ、訪れてみてください。



五和村村報を取り込む作業



Shimadian File #48

